

# 藤本是先生の古稀を賀す

関西大学学長 大西 昭 男

「一つの哲学の背後には一つの気質がある」とウィリアム・ジェイムズが言っている。哲学者・藤本是先生の「哲学」の背後には人間・藤本是の「気質」が、言いかえれば「人格」がある。近著『科学技術時代と哲学』の頁を追いながら、私はあらためてその感を深くした。そして、藤本先生への尊敬と親愛とがいよいよ深まるのを覚えた。哲学的思惟をつきつめていききびしい行文から、あたたかいものが立ち昇って来て、やさしく包みこんでくれる。私は先生の講筵に列したことはない。それだけに、親しく先生のお教えを受けることのできた若者たちが羨ましくてならない。

先生はカント、ヤスパースを経て、ハイデッガーの哲学に深く沈潜して来られ、特にハイデッガーの残して行った課題をご自分の哲学的思惟によって掘り下げて来られた。それも、教師として、人間としての現存在をしっかりと踏みしめながら。

先生のあたたかいお人柄にはじめて私が接したのは、四〇年近くも前のある夏のことであった。関西大学専門部から京都大学へ進んだ私は、まだ学生のままに母校の千里山図書館に職を得て、何千点という未整理図書の中にうずもれていた。そして、この夏休みの中に一挙に整理してみせようと、ドンキホーテよろしく立ち向かおうとしていた。その時に、私には苦手の哲学書の分類に手を貸して下さったのが若き日の藤本是先生だったのである。一冊そして一冊と埃を拂って丹念に見て下さったあの時の先生の、薄暗い電燈に照らされた真剣な横顔が今もありありと思い出される。書名か著者名か、あるいはふとした一行一句に触発されて、仕事もそっちのけにして私を哲学的談論に引きこんで行かれた時の先生の生きいきとした表情が今も私の胸の内によみがえって来る。先生は私のようなアルバイト学生に対しても、気取らず飾らず威張らず、議論を議論として楽しんでおられた。そしてそのご態度はその後の四〇年間、今日に至るまで少しも変わらない。そして常に、先生は、カントを引き、ヤスパースを語り、ハイデッガーを論じつつ、常にご自分の世界観を形成しようとしてこられた。そして議論の相手にも、世界観の形成をうながされた。

人間の生涯を通じての成長発展の段階の中で、好き嫌いの感情にのみ支配されている幼時から、善悪のけじめを知る少年時代を経て、自分なりの世界観を形成して行くことになる初めの時期に当たるのが、一七、八歳頃からということになるか。その大事な時期に、藤本先生のような師との出会いを持つことのできた若者たちは幸いである。教え子でこそなかったが、私もまたその幸いな一人であった。その感謝をこめて先生の古稀の賀に心

からお祝いを申し上げたい。

「人生七〇古来稀なり」という。高齢化社会にあつて七〇歳は必ずしも稀ではない。しかし、藤本先生のように、学問を愛し、若者たちを慈しみ、初心を忘れず、一以て之を貫かれての七〇年は、やはり古往今来稀なり、と言ふべきだろう。終わりに、先生のいつまでも若々しく初々しいおこころを気取らず飾らず威張ることなく素直に吐露なさつた先生ご自身のご文章の好箇の一例を、第一グラウンド記念碑の先生のご起草になる碑文からここに拝借させて頂くことにする。

「見上げれば紺碧の空があつた。地上には世界に奎（はばた）こうとする意志と希望とがあつた。またこれを支援しようとする人々の熱意と善意とがあつた。」

藤本是先生ご自身の「意志」と「希望」とが後に続く若者達に受け継がれることを心から願う。そして先生の「熱意」と「善意」とがいつの世までも語り伝えられんことを心から願う。